一般社団法人 システムイノベーションセンター
２０２５年度定時社員総会

議案書

開催日時 2026年３月６日（金） 11:00～12:00
開催場所 東京都新宿区西新宿6丁目12−39 ダイワロイネットホテル西新宿 会議室
および、オンライン出席を併用

議　　題

1）2026 年度 SIC 役員の体制の件　【報告事項：第 1 号議案】　p. 2

2）2025 年度　事業報告及び決算の承認の件　【普通決議事項：第 2 号議案】　p. 3
（含：2025 年度監査報告）
添付資料
2a）2025年度事業報告　p. 3
2b）2025年度決算書　p. 7
2c）決算報告書(貸借対照表)　p. 8
2d）決算報告書(正味財産計算書)　p. 9
2e）決算報告書(附属明細書)　p. 11
2f）監査報告書　p. 12

3）2026 年度事業計画及び予算の報告の件　【報告事項：第 3 号議案】　p. 14
添付資料
3a）2026 年度事業計画　p. 14
3b）2026 年度予算書　p. 17

4）SIC 戦略提言発出を含む対外活動活性化の件　【協議事項】　p. 18

（附１）　システムイノベーションセンター　2026年度現況　p. 19
a1）会員の状況　p. 19
a2）正会員、準会員　p. 19
a3）学術協議会　p. 20
a4）実行委員会　p. 22

（附２）　システムイノベーションセンター　2025年度活動の記録　p. 23
a5）SIC 第 3 次(2025 年度～2027 年度)中期計画
a6）「第２回システム人交流会―豊かな社会を協創するシステムへ―」開催報告
a7）「SIC シンポジウム 2025 日本をシステムから考える」開催報告
a8）「第３回ＳＩＣ経営者研修講座」開催報告

【報告事項 第1号議案】: 2026年度SIC役員の体制の件

下記、SIC役員（理事・監事）は、全員、2025年3月14日開催の 2024年度定時社員総会にて、2025年度よりの2年間の任期により選出されており、2026年度も引き続き職務を担うことを報告する。

一般社団法人システムイノベーションセンター　2026年度役員（理事・監事）

2024年度総会にて選出

	選任区分	氏名	所属	役職等
1	代表理事・センター長	浦川　伸一	株式会社スカイエージ / 株式会社スカイエージネクスト	代表取締役
2	業務執行理事・実行委員長	松本 隆明	元　独立行政法 人情報処理推進機構	元　顧問
3	理事・学術協議会主査	藤田　政之	金沢工業大学 東京工業大学	教授 名誉教授
4	理事	青山　和浩	東京大学大学院	工学系研究科・人工物工学研究センター 教授
5	理事	遠藤　薫	学習院大学	名誉教授
6	理事	岡本　浩	東京電力パワーグリッド株式会社	取締役・副社長執行役員
7	理事	鹿子木 宏明	横河電機株式会社	執行役 デジタルソリューション統括本部デジタル戦略本部長
8	理事	木谷　昭博	マツダ株式会社	常務執行役員兼CIO、業務イノベーション担当
9	理事	久間 和生	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	理事長
10	理事	齊藤　裕	独立行政法人情報処理推進機構(IPA)	理事長 兼 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター長
11	理事	島田　太郎	株式会 社東芝	代表取締役　社長執行役員CEO
12	理事	服部　正太	株式会社 構造計画研究所ホールディングス	取締役　代表執行役
1	監事	舩橋　誠壽	特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合	（元）理事
2	監事	新谷　勝利	早稲田大学	招聘研究員

【普通決議事項：第2号議案】:2025年度事業報告、および、同決算書の承認の件

定款第４０条にもとづき、2025年度の事業報告に関わる事項、および、決算の報告に対し、2025年度監査報告にもとづき、承認を求める。

添付資料：

2a）2025年度事業報告
2b）2025年度 決 算 書
2c）決算報告書(貸借対照表)
2d）決算報告書(正味財産計算書)
2e）決算報告書(附属明細書)
2f）2025年度監査報告書

2a） 2025年度事業報告

2025年度SIC活動報告

2026.3.6

1. 活動の概況

2025年度は、SICは設立後７年目にあたり、３年ごとに制定しているSIC中期計画の第３次計画を制定した。議案書末尾にSIC第３次中期計画の概要を付す。

第３次中期計画では、システム化の目指すものを問い、「卓越システム」の構築の推進を通して人中心社会の豊かさを協創する「システム4.0」を提唱した。また、データ共有による「システム産業」の創出と活性化を促すことで、豊かな社会の協創に向かう活動の推進を目標に据えている。

この第３次中期計画に基づく本年度の活動の特記事項としては、主要なイベントとして、上記の人中心社会の豊かな社会を“つながり”によって協創していくことをテーマに、「第２回システム人交流会」、「SICシンポジウム2025」、「第３回SIC経営者研修講座」を、対面、および、一部オンライン併用にて開催したことにある。いずれも盛況で、好評を得ており、次年度からのSICの活動における、主要な指針を得ている。

第2回システム人交流会は、SICが主催する各種研修講座を受講した「システム人」が企業の枠を超えてモチベーションを共有するとともに、参加者同士の人的チャネルの構築も図る場として「豊かな社会を協創するシステムへ」を標題として開催され、SICの活動の中でのシステム人への期待、システム人にとってはそのポテンシャルをどう生かしていくかについて意見交換を行った。

SICシンポジウム2025では、３年間にわたりほとんどの会員企業からの参画を得て、6つの分野を対象とした戦略提言活動について、すべての分野の提言策定が出揃ったことを受け、このSIC戦略提言活動の成果の公表を行い、それに基づき今の日本にどのようなシステムを構築すべきか、日本のシステム構造をどのように作りあげていくべきかを議論した。SIC戦略提言については、全体をまとめた冊子を7月に発行し、また、シンポジウムでの本提言活動に関するパネルディスカッションの記録も、冊子として10月に発行した。

第３回SIC経営者研修講座では、「“閉じる”から“つなぐ”へ：データ戦略が変える競争優位の本質」と題し、SIC理事を中心としたパネル講演とディスカッションを行った。

定常活動としては、2024年度定時社員総会を本年3月14日に、また、第１回理事会を同日に開催し、活動計画、予算、役員の陣容等が承認され、2025年度の活動を本格化し、12月17日の第2回理事会において、締めくくりの総括を行った。

その他、SIC会員へのシステム化に関する啓蒙を図る「SICフォーラム」を、今年度は７回開催し、AI、量子などの最先端技術の産業化に向けた取り組みや、持続可能性と価値創造の

ためのシステム基盤などについての講演を行った。
　一方で、人材育成協議会の開催が年度当初に困難な状況にあったため、人材育成のための研修講座の計画の調整が整わず、開催が見送られた。計画を引継ぎ、次年度に複数の研修講座の開設を図ることとした。また、新しい分科会の設立が延び延びになってしまっている。実行委員会にて内容を詰めており、2025年度での立ち上げを計画している。
　以下に、それぞれの活動ごとに、詳細を記す。

2.　実行委員会の活動
　SIC実行委員会は、下記の日程で毎月1回、計12回を開催した(1～11月はオンラインで、12月は対面にて開催）。各回とも20人近い委員の参加により活発な議論を行った。
　　1月21日、2月18日、3月18日、4月22日、5月20日、6月24日、7月22日、
　　8月26日、9月16日、10月14日、11月18日、12月16日
　実行委員会では、分科会や戦略提言等の活動の状況について委員間で状況を共有し、その成果の生かし方について検討を行うとともに、SICフォーラム、研修講座、戦略提言シンポジウム等のイベントの企画についても継続的に議論を行った。特に、AI関連での新しい分科会の設立に向けて、現状の分析を交えて検討をした。また、中期と期末にはSIC事務局から予算の執行状況と執行予定を報告するとともに、活動計画の遂行に向けての議論を行った。
　実行委員会での議事については、開催日の翌月に発行のSICニュースレターにて、毎回の報告を掲載している。

3.　分科会の活動
　「システムオブシステムズ分科会」は、人を要素として取り込んだ多階層のシステムのモデル化や将来像を題材に、SoSの考え方について議論を深め、2024年度末に報告書をまとめている。その活動成果報告会を、2月27日に開催した。CPHS (Cyber Physical Human System) のアーキテクチャーの提唱と、EVドライバー行動変容システム、航空管制システムなどの事例をもとに、「人間中心のシステム設計」の重要性が強調された。
　AIや量子技術などの先端システム技術に関連した、新しい分科会の設立を実行委員会等で模索した。2026年度の主要計画の一つとされた。

4.　人材育成協議会の活動
　前記のように、人材育成のための研修講座の計画について、学術協議会特別講義の連続開催を企画したが、その実現の調整が整わず、今年度は開講が見送られた。計画を引継ぎ、2026年度に、その他の企画も含めて複数の研修講座の開設を図ることとした。

5.　戦略委員会の活動
　1月20日に委員会を開催し、SIC 第３次中期計画策定、2025年度のSICの活動の基本方針策定について協議をした。
　SICの第３次中期（2025年から3カ年）計画の柱として、社会を豊かにするシステム作りを目指すという提案があり、議論を重ね、中期計画案を策定した。この中期計画に沿って、2025年度のSICの活動を進めることとした。
　一方、３年間にわたりほとんどの会員企業からの参画を得て、活動を展開してきたSIC戦略提言活動にて、（１）ヘルスケア、（２）エネルギー、（３）ロジスティックス、（４）金融、（５）科学技術、（６）防災・レジリエンスの、6つの分野を対象とした提言策定が出揃った。これを受け、日本にどのようなシステムを構築すべきか、日本のシステム構造をどのように作りあげていくべきかを、策定した戦略提言を公表し、それに基づいて議論をするシンポジウムの開催を決めた。
　この戦略提言シンポジウムでは、６分野の戦略提言を軸に、その根底にある日本の産業構造システム的課題を全体から見直して行くとし、開催実行WGからのシンポジウムのタイトル、スローガンの提案と、2025年半ばに開催するという計画を了承した。

6.　SICフォーラム

以下の７回の開催をおこなった。

・第1回（3月28日）　岡田俊輔氏　（株式会社東芝）
　【タイトル】「量子技術の産業化に向けた取り組み（日本の現状と可能性）」
　【参加者数】７８名
・第2回（4月16日）　古関 隆章氏　（東京大学大学院）
　【タイトル】「人口減少期の日本における持続可能な公共交通自動化技術」
　【参加者数】４４名
・第3回（6月4日）　鹿子木宏明氏　（横河電機株式会社）
　【タイトル】「AI ファースト・マニュファクチャリング」
　【参加者数】７１名
・第４回（7月3日）　橘高康朗氏　（アメリス株式会社）
　【タイトル】「日本のホワイトカラー産業へのAIエージェント導入の可能性と課題」
　【参加者数】６４名
・第５回（8月27日）　木谷昭博氏　（マツダ株式会社）
　【タイトル】「人とITの共創による価値創造」
　【参加者数】４３名
・第6回（11月27日）　高林 幹夫氏　（三菱電機株式会社）
　【タイトル】「顧客との共創によるイノベーションを実現するシステム基盤」
　【参加者数】４０名
・第７回（12月17日）　藤井 享氏　（豊橋技術科学大学総合教育院）
　【タイトル】「マーケティング5.0（デジタルネイティブ）の時代における製造DXの課題とは」
　【参加者数】３９名

いずれも、SICニュースレターにてルポと共に開催報告を掲載している。

7.　主要イベントの開催

前述のように、本年度は、主要なイベントとして、第2回SIC「システム人交流会」（6月21日、参加者26名）、「SICシンポジウム2025 日本をシステムから考える」（9月9日、参加者49名）、「第3回SIC経営者研修講座」（11月11日、参加者70名）を開催した。

システム人交流会については、SICニュースレターVol.7.7（25年7月発行）に、SICシンポジウム2025については、同Vol.7.10（25年10月発行）に、第3回SIC経営者研修講座については、同Vol.7.12（25年12月発行）に、開催報告を掲載している。SICニュースレターでのそれぞれの開催報告の一部を、議案書末尾に付録として掲載する。

8.　広報活動

「SICニュースレター」を毎月発行。各号では、SICの活動状況報告とともに、以下に示すように有識者の方々に貴重な論説や寄稿を執筆頂いている。

・69号：【SIC戦略提言要約シリーズⅣ】「ロジスティックス」サブワーキンググループ戦略提言
　「ロジスティックス分野におけるシステム設計の提案」
・70号：【論説】「DX 時代の倫理と可能性～人間と技術が共創する未来のために～」
　学習院大学名誉教授　遠藤 薫氏
・71号：2024年度SIC社員総会(2025年3月14日開催)報告
　【SIC戦略提言要約シリーズＶ 】「金融」サブワーキンググループ戦略提言
　「マイナンバー及びマイナンバー制度の利活用推進に向けた提言」
・72号：【技術紹介 】「国際電気のデジタルソリューションに向けた取り組み」
　株式会社国際電気　廣岡慎一郎 氏
・73号：【寄稿】「ロボットとシステム」
　大阪工業大学 ロボティクス＆デザイン工学部　大須賀 公一 氏

・74号：【エッセイ 】Unity 3.0：エネルギーと情報をつなぐ新文明論　―システム思考とワット・ビット連携にもとづくイチゴ大福的宇宙仮説―
東京電力パワーグリッド株式会社　取締役副社長執行役員　　岡本浩氏
・75号：【SIC戦略提言要約シリーズⅥ 】「防災・レジリエンス」サブワーキンググループ戦略提言―
「『自助・共助・公助』を支える自律分散型の防災アーキテクチャー設計の提案」
・76号：【技術紹介】「原子力防災と避難シミュレーション 」
株式会社構造計画研究所　　米山　照彦氏、ほか
・77号：【寄稿】「グローバル先進工場との比較による日本の製造 DX の現状と課題」
豊橋技術科学大学総合教育院 教授 藤井 享 氏
・78号：【寄稿】「人材多様化時代を生きる個人」
法政大学 キャリアデザイン学部 教授　武石 恵美子氏
・79号：【寄稿】「カーボンニュートラルに向けた大阪ガスのメタネーション技術開発～大阪・関西万博でのメタネーション実証を終えて～」
大阪ガス株式会社　横山 晃太氏

上記の論説・寄稿については、2025年度に執筆頂いた原稿をSICニュースレター「論説」集（第６巻）としてまとめ、関係機関に配布した。

この他の広報活動として、主に、非会員の一般向けとしてメールマガジン「SIC便り」を今年度も継続して定期的に発行するとともに、SICの紹介パンフレットを作成して広く配布することで新たな会員獲得に努めた。

また、SNSを通じた広報活動にも、昨年度から力を入れることにし、YouTubeとホームページに、SICフォーラム、研修講座等の講演の記録画像の掲載を始めている。その他、Facebook、XなどにもSIC主催イベントの案内などの掲載を行っている。

9.　会員状況

2025年12月末日現在の会員状況は以下のとおりである。

(1)正会員
21社
(2)準会員
4社（インキュベーション会員１、人財育成限定会員3）
(3)学術会員
49名
(4)個人会員
8名

以上

2b)

システムイノベーションセンター2025年度 決算書

■収入予算と実績

2026年2月10日

項番	収入科目	会員数	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	予算差異
	(1)年会費収入					
1	・正会員	21社	¥12,800,000	¥11,800,000	¥10,450,000	▲ 1,350,000
				¥400,000	¥0	▲ 400,000
2	・準会員	3社	¥150,000	¥250,000	¥250,000	0
				¥200,000	¥100,000	▲ 100,000
3	・学術会員	47名	-	-	-	
4	・個人会員	8名	¥40,000	¥40,000	¥30,000	▲ 10,000
	会費収入　小計		¥12,990,000	¥12,690,000	¥10,830,000	
5	(2)受託収入(公的機関からの調査委託費)					0
6	(3)講習会等参加費(会員外からの収入含む)		¥1,561,000	¥700,000	¥148,000	▲ 552,000
7	(3)共同研究実施費用					0
8	(4)利息 その他		¥2,963		¥35,360	35,360
9	会費以外の収入　小計		¥1,563,963	¥700,000	¥183,360	▲ 516,640
10	当期　収入総計		¥14,553,963	¥13,390,000	¥11,013,360	

■実行予算と実績

	支出科目	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	予算差異
11	(1)事業費 小計	¥5,164,512	¥7,090,000	¥3,964,747	
12	・総会運営	¥409,240	¥300,000	¥144,100	▲ 155,900
13	・理事会・戦略委員会　運営費		¥100,000	¥65,000	▲ 35,000
14	・SIC特別調査費	¥0	¥700,000	¥0	▲ 700,000
15	・SIC戦略提言書　製本・配布	¥0	¥100,000	¥365,200	265,200
16	・戦略提言シンポジウム　運営費	¥0	¥1,500,000	¥1,117,382	▲ 382,618
17	・実行委員会 運営費	¥0	¥80,000	¥58,100	▲ 21,900
18	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費				
19	分科会謝礼	¥289,565	¥480,000	¥0	▲ 480,000
20	活動費(WG活動 調査委託費)	¥47,000	¥500,000	¥0	▲ 500,000
21	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥1,040,601			
22	・システム塾運営費	¥0	¥700,000	¥574,031	▲ 125969
23	・システム人交流会				
24	・研修講座　講習会開催費	¥2,300,774	¥400,000	¥0	
25	・SIC産学交流会運営費			¥0	
26	・SICフォーラム運営費　戦略フォーラム	¥172,625	¥300,000	¥89,097	▲ 210,903
27	・経営者研修講座　パネルディスカッション		¥900,000	¥700,887	▲ 199,113
28	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥493,373	¥500,000	¥351,850	▲ 148,150
29	広報資料(パンフレット等)作成費	¥134,200	¥100,000	¥58,290	▲ 41,710
30	広報強化　(プレス発表 、Youtube等)による	¥12,560	¥130,000	¥33,000	▲ 97,000
31	SICの広報誌	¥0	¥100,000	¥113,300	13,300
32	・外部団体との連携活動の強化	¥0	¥30,000	¥0	▲ 30,000
33	・SIC活動のシステム化情報基盤の高度化 (Teams、ZOOM、Adobee　等の活用費)	¥194,574	¥100,000	¥224,510	124,510
34	・租税公課	¥70,000	¥70,000	¥70,000	0
35	(2)管理費 小計	¥8,413,947	¥8,370,000	¥8,253,343	▲ 116,657
36	・事務所　賃貸・共益費	¥3,108,480	¥3,240,000	¥2,945,764	▲ 294,236
37	・人件費	¥4,909,649	¥4,900,000	¥5,033,968	133,968
38	・事務管理の充実(備品類の整備等)	¥97,227	¥70,000	¥24,750	▲ 45,250
39	・事務所　消耗品、その他諸経費	¥139,611	¥30,000	¥34,569	4,569
40	・保守費	¥92,803	¥30,000	¥103,400	73,400
41	・旅費・交通費　国内/海外	¥0	¥10,000	¥18,940	8,940
42	・郵送費	¥4,951	¥20,000	¥31,047	11,047
43	・通信費	¥48,364	¥30,000	¥42,645	12,645
44	・雑費	¥2,962	¥10,000	¥2,750	▲ 7,250
45	・振込手数料	¥9,900	¥30,000	¥15,510	▲ 14,490
46	(3)予備費	¥0	¥1,000,000	¥0	
47	実績及び実行予算計	¥13,578,459	¥16,460,000	¥12,218,090	▲ 4,241,910
48	当期収支損益	**971,226**	**▲ 3,070,000**	**▲ 1,204,730**	1,865,270

■繰越金　期末正味財産

		2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	
49	年度収支額	**971,226**	**▲ 3,070,000**	▲ 1,204,730	
50	期首繰越金	¥24,343,040	¥25,314,266	¥25,314,266	
51	期末繰越金	¥25,314,266	¥22,244,266	¥23,646,710	

2c）

2026年2月10日

貸借対照表

2025年1月1日～2025年12月31日

項番	資 産 の 部		負 債 の 部	
	科　　目	金　額	科　　目	金　額
1	［流 動 資 産］		［流 動 負 債］	
2	現金・預金	¥23,626,710	未払金	
3	未収会費		未払費用	¥187,110
4	未収金	¥20,000	前受金	¥0
5	前払金	¥0	前受会費	¥0
6	前払費用	¥0	預 り 金	¥0
7	仮払金	¥0	短期借入金	¥0
8				
9	流動資産合計	¥23,646,710	流動負債合計	¥187,110
10	［固定資産］		［固 定 負 債］	
11				
12	（有形固定資産）		減価償却費	¥305,352
13			固定負債合計	¥305,352
14			負 債 合 計	¥492,462
15				
16			正味財産の部	
17	（無形固定資産）		［指定正味財産］	¥0
18			寄付金	¥0
19				
20			［一般正味財産］	
21			前期繰越正味財産	¥25,314,266
22	固定資産合計		当期正味財産増減額	(¥1,204,730)
23				
24			正味財産合計	¥24,109,536
25	資 産 合 計	¥23,646,710	負債・正味財産合計	¥23,646,710

2d)

2026年2月10日

正味財産増減計算書

一般社団法人システムイノベーションセンター

2025年1月1日～2025年12月31日

項番	科目	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	備考(増減)
1	Ⅰ　一般正味財産増減の部				
2	1．経常増減の部				
3	（1）経常収益				
4	受取会費				
5	受取正会員会費	¥12,800,000	¥12,200,000	¥10,450,000	▲ 2,350,000
6	受取准会員会費	¥150,000	¥450,000	¥350,000	
7	受取個人会員会費	¥40,000	¥40,000	¥30,000	▲ 10,000
8	事業収益				0
9	受取参加費	¥1,561,000	¥700,000	¥148,000	▲ 1,413,000
10	受取共同研究費	¥0		¥0	0
11	受取補助金等				0
12	受取寄付金				0
13	寄付金				0
14	雑収益				0
15	受取利息　その他	¥2,963		¥35,360	32,397
16	経常収益計	¥14,553,963	¥13,390,000	¥11,013,360	▲ 3,540,603
17	（2）経常費用				
18	事業費				
19	・総会運営	¥409,240	¥300,000	¥144,100	▲ 200,140
20	・理事会・戦略委員会　運営費		¥100,000	¥65,000	
21	・SIC特別調査費	¥0	¥700,000	¥0	0
22	・SIC戦略提言書 製本・配布	¥0	¥100,000	¥365,200	365,200
23	・戦略提言シンポジウム　運営費	¥0	¥1,500,000	¥1,117,382	1,117,382
24	・実行委員会 運営費	¥0	¥80,000	¥58,100	58,100
25	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費				
26	分科会謝礼	¥289,565	¥480,000	¥0	▲ 289,565
27	活動費(WG活動　調査委託費)	¥47,000	¥500,000	¥0	▲ 47,000
28	・経営者研修講座　パネルディスカッション		¥900,000	¥700,887	700,887
29	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥1,040,601			▲ 1,040,601
30	・システム塾運営費		¥700,000	¥574,031	574,031
31	・システム人交流会				
32	・研修講座　講習会開催費	¥2,300,774	¥400,000	¥0	▲ 2,300,774
33	・SIC産学交流会運営費				0
34	・SICフォーラム運営費　戦略フォーラム	¥172,625	¥300,000	¥89,097	▲ 83,528
35	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥493,373	¥500,000	¥351,850	▲ 141,523
36	広報資料（パンフレット等）作成費	¥134,200	¥100,000	¥58,290	▲ 75,910
37	広報強化　（プレス発表 、Youtube等）による	¥12,560	¥130,000	¥33,000	20,440
38	SICの広報誌	¥0	¥100,000	¥113,300	113,300
39	・外部団体との連携活動の強化	¥0	¥30,000	¥0	
40	・SIC活動のシステム化情報基盤の高度化 （Teams、ZOOM、Adobee　等の活用費）	¥194,574	¥100,000	¥224,510	29,936
41	・租税公課	¥70,000	¥70,000	¥70,000	0
42	事業費計	¥5,164,512	¥7,090,000	¥3,964,747	▲ 1,199,765
43	管理費				
44	・事務所　賃貸・共益費	¥3,108,480	¥3,240,000	¥2,945,764	▲ 162,716
45	・人件費	¥4,909,649	¥4,900,000	¥5,033,968	124,319
46	・事務管理の充実（備品類の整備等）	¥97,227	¥70,000	¥24,750	▲ 72,477
47	・事務所　消耗品、その他諸経費	¥139,611	¥30,000	¥34,569	▲ 105,042
48	・保守費	¥92,803	¥30,000	¥103,400	10,597
49	・旅費・交通費　　国内/海外	¥0	¥10,000	¥18,940	18,940
50	・郵送費	¥4,951	¥20,000	¥31,047	26,096
51	・通信費	¥48,364	¥30,000	42,645	▲ 5,719
52	・雑費	¥2,962	¥10,000	¥2,750	▲ 212
53	・振込手数料	¥9,900	¥30,000	¥15,510	5,610
54	管理費計	¥8,413,947	¥8,370,000	¥8,253,343	▲ 160,604

正味財産増減計算書

一般社団法人システムイノベーションセンター

2025年1月1日～2025年12月31日

項番	科目	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	備考(増減)
55	予備費	¥0	¥1,000,000	¥0	0
56	経常費用計	¥13,578,459	¥16,460,000	¥12,218,090	▲ 1,360,369
57	評価損益等調整前当期経常増減額	¥971,226	¥-3,070,000	¥-1,204,730	▲ 2,175,956
58	当期経常増減額				
59					
60					
61	**2. 経常外増減の部**				0
62	(1)経常外収益				0
63	経常外収益計	¥0	¥0	¥0	0
64	(2)経常外費用				0
65	経常外費用計	¥0	¥0	¥0	0
66	当期経常外増減額	¥0	¥0	¥0	0
67					0
68	当期一般正味財産増減額				0
69	一般正味財産期首残高	¥24,343,040	¥25,314,266	¥25,314,266	971,226
70	一般正味財産期末残高	¥25,314,266	¥22,244,266	¥23,646,710	▲ 1,667,556
71					0
72	**Ⅱ 指定正味財産増減の部**				0
73	受取補助金等	¥0	¥0	¥0	0
74	一般正味財産への振替額	¥0	¥0	¥0	0
75					0
76					0
77	**Ⅲ 正味財産期末残高**	¥25,314,266	¥22,244,266	¥23,646,710	▲ 1,667,556

2e）

2026年2月10日

一般社団法人システムイノベーションセンター　第3期事業報告

附属明細書　財務諸表に関する注記

1　通帳残高と現金

2025年12月31日時点での通帳残高,および現金残高は下記の通り

①SICセンター預金口座	¥23,607,710
②現金残高	¥19,000
計	¥23,626,710

2　繰越金の扱いと未払金・未収金の補足

繰越金は、当法人の継続的な事業運営の観点（継続性と財務の安全性・安定性）を考慮して運営している。

2025年度は、期末の11月にイベント事業を開催したために未払金・未収金が発生した。

未払金はカード決済によるため銀行引き落としが期をまたがった処理となった。

未収金は、参加した企業の支払いルールにより2026年度振込となったため。

3　備品

SIC備品として今年度以下の事務机を購入した。

事務机		1台	事務所備品

SIC備品として購入した主な品目は下記の通り。

ワイヤレスピンマイク	1式	
デュアルチャンネルマイクシステムレシーバ・トランスミッター	1式	
OKNWifi6　無線LAN子機	1式	
バッファローWiFi無線ルータ	1式	
その他、ハイブリッド映像システムに要する備品1式　LANケーブル等	1式	

2f）会計監査報告

監査報告書

一般社団法人システムイノベーションセンターにおける 2025 年度（令和 7 年度）の事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに附属明細書は、監査の結果、当法人の状況を正しく示し事実と相違ないことを認めます。

2026 年（令和 8 年）3 月 6 日

一般社団法人システムイノベーションセンター　監事 船橋　誠壽 ㊞

監事 新谷　勝利 ㊞

附）

2025年2月10日

SIC財産目録

科目	購入日	品名	備考
事務所備品	2020	プロジェクター	
事務所備品	2020	USBカメラ	オンラインミーティング備品
事務所備品	2020	JABRA	同上
事務所備品	2020	カメラ三脚	同上
事務所備品	2020	ヘッドセット	同上
事務所備品	2020	ワイドレンズカメラ(サンワサプライ)	同上
事務所備品	2020	ノートPC	同上
事務所備品	2021	ノートPC	事務所
事務所備品	2021	モバイルディスプレイ	ハイブリッド環境構築備品
事務所備品	2021	ビデオカメラ　2セット	同上
事務所備品	2021	カメラ三脚	同上
事務所備品	2021	YVC1000　マイクセット	同上
事務所備品	2021	その他　ハイブリッド映像システムに要する備品1式　LANケーブル　電源ケーブル等	同上
事務所備品	2022	ワイヤレスピンマイク	同上
事務所備品	2022	デュアルチャンネルマイクシステムレシーバ・トランスミッター	同上
事務所備品	2022	OKNWifi6　無線LAN子機	同上
事務所備品	2022	バッファローWiFi無線ルータ	同上
事務所備品	2023	キャノン　MFP　GX6000	事務所
事務所備品	2023	キャリーカート　1台	器材運搬用
事務所備品	2024	バッファロー　リンクステーション　1台	業務データ保管用RAID

【報告事項：第3号議案】 2026年度事業計画及び予算の報告の件

2026年度の事業計画及び予算について報告する。

添付資料

3a）2026 年度事業計画

3b）2026 年度予算書

3a）2026 年度事業計画

2026年度SIC活動計画

SICは設立後７年を経過し、日本の産・官・学におけるシステム化を推進するための分析、知見、外部発信を蓄積してきている。2026年度は、３年ごとに制定しているSIC中期計画の第３次２年目にあたる。第３次中期計画では、「卓越システム」の構築の推進を通して人中心社会の豊かさを協創する「システム4.0」を提唱し、また、データ共有による 「システム産業」の創出と活性化を、豊かな社会の協創に向けて促す活動の推進を目標に据えている。そこで、具体的な活動では、システム4.0を包含するより大きな社会目標であるSociety5.0の実現に向け、サイバーとフィジカルの融合化を推進することを念頭に置いて、外部の組織、団体とも連携した活動の計画を進める。

2025年度には、SIC戦略提言活動の成果の展開として、システムの「質」を重視した「社会にとっての良いシステム」を再定義しつつ、卓越システムの構築普及を目指す、SICシンポジウムの開催等を行った。2026年度も、この方針を継続して、さらに、実社会にて着地・実現させる活動を集中的に行っていきたい。そこでの次年度の大きな方向性としては、戦略提言を大きな流れにしていくことを柱に、提言に賛同する仲間作りをして、より実効性のある成果を生み出していきたい。

また、同時に、これまでのSICフォーラム開催、ニュースレターの発刊、人財育成のための各種講習会の開催などの活動を活性化すると同時に、SICフォーラム等の継続的に実施する事業に加え、現在以上にSICの存在感を増すような外部発信を強化したい。

これらの活動を通して、「ウラノス・エコシステム」の推進への関与を始めとして、SICの活動の奥行きを深め、その目標の社会実現を具体的に図っていく道を探りたい。

具体的には以下のような事業を想定して、上記の目標の実現に向けて、要点を絞って詳細を検討する。まず、活動計画を７つの事業グループ化して実現性を整理する。

活動計画の具体化（７事業グループ）

１．戦略提言の外部連携化による、システム4.0（人中心システム）の普及
２．データ共有基盤の整備と「システム産業」創出（OEPCとの連携）
３．分科会の立ち上げ（AI等）
４．システム人材育成講座
５．SICフォーラム継続開催
６．主要イベントの開催
７．広報強化（NL・HP・SNS）

活動計画の具体化は次表のようにまとめられる。

事業名	目的	活動の内容	期限
戦略提言の外部連携化	提言を共同プロジェクト化する	戦略提言の表題を冠した外部連携協定を、RRI、DADC等と締結し、活動を開始する	年度前半
データ共有基盤の整備と「システム産業」創出（OEPCとの連携）	SIC流「データ共有基盤」の構築	第３回経営者研修講座の各講演での提言の整理と具体化	年度前半
分科会立ち上げ（AI等）	システム技術テーマでの実効的議論の場を築く	（AI関連での）分科会設置・初回会合実施	年度前半
システム人材育成講座の開催	システムアーキテクト育成	SICで積み上げてきた教材、ノウハウ、学術会員の動員等を活用した、研修コース開講・受講者確保	年度内
SICフォーラムの継続開催	会員向け情報提供と交流促進	年間6~8回開催（テーマ、講師の選定方法を検討）	年間
主要イベントの開催	シンポジウム、交流会等の開催による、SICの存在価値の確立	少なくとも、ビッグイベントを１回開催（エネルギー、ロジスティクス政策提言を、実行段階に落とし込むシンポジウム）	年度内
広報強化（NL・HP・SNS）と会員拡大	会員にとっての参加価値の向上、外部認知と会員増加	ニュースレター定期発行・HP更新、システム技術関連の資料、冊子などの発行、配布	継続

以下に、活動計画の具体化のための要点を述べる。

1. 活動具体化の目的

-システム4.0の普及：人中心の豊かな社会を目指すシステム設計思想の普及。
-戦略提言の実装：6分野の提言を外部パートナーと連携して社会実装へ移行。
-外部発信と存在感向上：イベント・ニュースレター・研修等で認知と影響力を強化。
-システム人材の育成：システムアーキテクト等の育成プログラム整備。
-分科会設置：AI、量子技術、サーキュラーエコノミー等の分科会立ち上げ。

2. SICの主要施策としての事業の位置づけ

１． 第３次中期計画の具体的な前進を図る

システム化は何のためかを問い、人を中心とした社会の豊かさを拡張する**「システム4.0」の**普及を図り、各分野に普及・推進する。すなわち、システム4.0は、現在提唱されているCPHS（Cyber Physical Human System）と相通じる等、その性格を具体化して、普及・推進を提案する。

２． SIC 戦略提言の展開

６分野にわたるSIC戦略提言活動の成果について、それぞれの分野ごとに外部パートナーとの連携を築くことで、その社会実装の進むことを図っていく。

SIC単独では、それほど大きな組織ではないので、これを社会の流れにしていくためには、同調者を増やしていく必要がある。戦略提言を策定したことで、単にシステム化を提唱する以上の具体的なシステム化の方向性を得ていると考え、仲間作りを説教的に進めていく。

３． 友好団体・機関との協業・共同プロジェクトの推進

上記２．の実現を軸として、OEPCとの連携、DADC、RRIとの３極での協働体制を構築する。一方で、その他の外部パートナーとの連携協定の拡大を図る。

４． 分科会の立ち上げ計画を推進する

AI、量子技術などの最先端情報技術が、システム構築の要件そのものを代えつつあることを、SICフォーラム、実行委員会等において採り上げ、AIが社会をどう変えていくか、量子技術はどう応用できるか等々その動向を議論してきている。これらの主題を含め、AIエージェント、サーキュラーエコノミー、その他のシステム応用に関する分科会

の立ち上げを計画する。

ただし、新たな分科会の立ち上げについては、これまではニーズ指向（会員企業が抱える課題ベース）で分科会を企画してきたが、会員が抱える課題の多くは競争領域の課題となりがちで、SICの検討テーマになりづらかった。次年度は、シーズ指向でテーマを策定する方向で考えたい。

５．人財育成のための研修講座の開催

SICの主要な柱の一つであるシステム人材の育成について、研修講座などの充実を図る。特に、システムアーキテクト人材の育成を目指す研修講座の立ち上げを検討する。

６．SIC フォーラムの継続的な開催

SIC会員への最新技術動向の紹介・普及のため、年間に６～８回程度のSICフォーラムの開催を計画する。

７．主要 SIC イベント（経営者研修講座、SIC シンポジウム、システム人交流会等）ととして、

SIC会員が一堂に会し、SICの活動の存在感を実感しつつ、非会員にも広く開放するする主要なイベントを立案し、計画する。

８．ニュースレター、ホームページ等を活用した広報の充実

魅力あるニュースレターの継続的な発行、時機を得たホームページの編集、その他のメディアを利用しての外部発信を含む広報活動を、継続的に充実させる。

3b)

システムイノベーションセンター2026年度　予算案

■2026-1/1～2026-12/31　　2026年2月10日

項番	収入科目	現会員数	2025年度予算	2025年度実績	2026年度予算案	補足説明
	(1)年会費収入					
1	・正会員	18社	¥11,800,000	¥10,450,000	¥9,200,000	
			¥400,000	¥0	¥800,000	正会員新規4社 追加（合計22社）
2	・準会員	4社	¥250,000	¥250,000	¥300,000	
			¥200,000	¥100,000	¥500,000	準会員新規5社 追加（合計9社）
3	・学術会員	47名	-	-	-	
4	・個人会員	9名	¥40,000	¥30,000	¥45,000	
	会費収入　小計		¥12,690,000	¥10,830,000	¥10,845,000	
5	(2)受託収入(公的機関からの調査委託費)					
6	(3)講習会等参加費(会員外からの収入含む)		¥700,000	¥148,000	¥850,000	システム人財育成活動等の参加費
7	(3)共同研究実施費用					
8	(4)利息 その他			¥35,360		
9	会費以外の収入　小計		¥700,000	¥183,360	¥850,000	
10	繰越金からの補填				¥1,900,000	繰越金の適正水準化（注1）
11	当期　収入総計		¥13,390,000	¥11,013,360	¥13,595,000	

■実行予算と実績

	支出科目	2025年度予算	2025年度実績	2026年度予算	補足説明
12	(1)事業費 小計	¥7,090,000	¥3,964,747	¥5,595,000	
13	・総会運営	¥300,000	¥144,100	¥295,000	
14	・理事会・戦略委員会　運営費	¥100,000	¥65,000		
15	・SIC特別調査費	¥700,000	¥0	¥1,000,000	
16	・SIC戦略提言書　製本・配布	¥100,000	¥365,200	¥250,000	提言集等 50部 他
17	・戦略提言シンポジウム 運営費	¥1,500,000	¥1,117,382	¥350,000	
18	・実行委員会 運営費	¥80,000	¥58,100	¥100,000	
19	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費				
20	分科会謝礼	¥480,000	¥0	¥450,000	
21	活動費(WG活動 調査委託費)	¥500,000	¥0	¥400,000	
28	・経営者研修講座　パネルディスカッション	¥900,000	¥700,887		
22	・ケーススタディによるシステム構築講習会				
23	・システム塾運営費			¥500,000	
24	・システム人交流会	¥700,000	¥574,031		
25	・研修講座　講習会開催費	¥400,000	¥0	¥800,000	
26	・SIC産学交流会運営費		¥0		
27	・SICフォーラム運営費　戦略フォーラム	¥300,000	¥89,097	¥330,000	
29	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥500,000	¥351,850	¥400,000	
30	広報資料(パンフレット等)作成費	¥100,000	¥58,290	¥150,000	
31	広報強化　(プレス発表 、Youtube等)による	¥130,000	¥33,000	¥50,000	
32	SICの広報誌	¥100,000	¥113,300	¥100,000	論説集 印刷配布
33	・外部団体との連携活動の強化	¥30,000	¥0	¥150,000	RRI、IPA 連携の体制構築費
34	・SIC活動のシステム化情報基盤の高度化 (Teams、ZOOM、Adobee　等の活用費)	¥100,000	¥224,510	¥200,000	
35	・租税公課	¥70,000	¥70,000	¥70,000	
36	(2)管理費 小計	¥8,370,000	¥8,253,343	¥7,500,000	
37	・事務所　賃貸・共益費	¥3,240,000	¥2,945,764	¥1,950,000	B-19事務所の管理費のみ
38	・人件費	¥4,900,000	¥5,033,968	¥5,200,000	
39	・事務管理の充実(備品類の整備等)	¥70,000	¥24,750	¥70,000	
40	・事務所　消耗品、その他諸経費	¥30,000	¥34,569	¥20,000	
41	・保守費	¥30,000	¥103,400	¥30,000	
42	・旅費・交通費　　国内/海外	¥10,000	¥18,940	¥50,000	
43	・郵送費	¥20,000	¥31,047	¥100,000	
44	・通信費	¥30,000	¥42,645	¥40,000	
45	・雑費	¥10,000	¥2,750	¥10,000	
46	・振込手数料	¥30,000	¥15,510	¥30,000	
47	(3)予備費	¥1,000,000	¥0	¥500,000	
48	実績及び実行予算計	¥16,460,000	¥12,218,090	¥13,595,000	
49	当期収支損益	▲ 3,070,000	▲ 1,204,730	0	

■繰越金　期末正味財産

		2025年度予算	2025年度実績	2026年度予算	
50	年度収支額	▲ 3,070,000	▲ 1,204,730	0	
51	期首繰越金	¥25,314,266	¥25,314,266	¥23,646,710	繰越金取崩し額190万
52	期末繰越金	¥22,244,266	¥23,646,710	¥21,746,710	

注記：前年度繰越金から190万を収入予算として作成。

【議題４：協議事項】 SIC 戦略提言発出を含む対外活動活性化の件
2026 年度の SIC の主要な活動となる「SIC 戦略提言」の発出活動について報告、検討する。
SIC戦略提言資料掲示ページ URL: https://sysic.org/center_activity/3837.html

---

「ＳＩＣシンポジウム２０２５ 日本をシステムから考える」（2025.9.9 開催）において採択された、「SICからのメッセージ」

日本をシステムから考える ～SICからのメッセージ～

これまで我が国の産業は、現場の力によって支えられてきた
⇒ できるところから、できる範囲内で問題解決、カイゼンを行ってきた

しかしながら、VUCAの時代にあっては現場最適の考え方だけではイノベーションにはつながらず、世界で後塵を拝す状況となりつつある
⇒ 失われた30年の主たる要因

より高い視点に立ち、俯瞰的にとらえ、全体最適で考える、すなわちシステムとして考えないと現状の停滞から抜け出すことはできない

特に、分野を超えた連携と構想力で社会の創発を導く良いシステム（卓越システム）を考えることが重要である

ケーススタディとして今回提示した６つの提言に共通するのは、全体最適で考える卓越システムの必要性である

現場任せにせず、国や企業のマネージメント層自らが現場と一体となってより高い視点からシステムイノベーションを実現すべし！

なお、「卓越システム」は、SICにおいて以下のように定義されている。

卓越システムに求められる要件

作られた理念が明快に理解でき、出来ることと出来ないことの境界がはっきりしている

システムの全体構成が理解しやすい

運用しやすく、故障への対応が容易である

拡張可能性（Scalability）がある

技術の進歩を含む環境の変化に応じて進化できる

利害関係者の多くを満足させることができる

堅牢で十分な持続可能性がある

システム構築、運用のコストが小さい

（附） システムイノベーションセンター 現況　　（2026年3月現在）

a1）会員の状況

２０２６年３月１日の会員の状況は下記の通り。
正会員　１７社　　準会員　４社　　個人会員　９名　学術会員　４８名

a2）正会員

NO	SIC会員企業名	備　考
1	ＳＣＳＫ株式会社	
2	ＮＴＴドコモソリューションズ株式会社	
3	株式会社ＮＴＴドコモ	
4	株式会社構造計画研究所	
5	株式会社国際電気	
6	株式会社ＪＳＯＬ	
7	株式会社東芝	
8	東京電力パワーグリッド株式会社	
9	日鉄ソリューションズ株式会社	
10	株式会社ニューチャーネットワークス	
11	株式会社野村総合研究所	
12	株式会社日立産業制御ソリューションズ	
13	株式会社日立システムズ	
14	株式会社日立製作所 研究開発グループ 社会システムイノベーションセンタ	
15	マツダ株式会社	
16	横河電機株式会社	
17	ロジスティード株式会社	

準会員

1	電脳バンク株式会社	インキュベーション会員
2	NEXT WIND 合同会社	インキュベーション会員
3	アメリス株式会社	人財育成限定会員
4	東京ガス株式会社	人財育成限定会員

a3）学術協議会

学術協議会		
主査	藤田政之　教授	東京大学、制御工学
副主査	白坂成功　教授	慶應義塾大学、システムデザイン＆マネジメント

メンバー		
関西大学	黒江康明 客員教授	システム学、制御理論とその応用、知能情報処理
京都大学	椹木哲夫 名誉教授	システム工学,機械工学,人間機械系,デザイン学
	喜多　一　教授	社会シミュレーション、情報教育
	池田裕一　教授	データ科学、ネットワーク解析、政策科学
慶應義塾大学	中野　冠 SDM顧問	システムデザイン＆マネジメント、デザイン工学
	前野隆司　教授	システムデザイン＆マネジメント、人間工学
	西村秀和　教授	システムデザイン＆マネジメント、モデル学
	滑川　徹　教授	分散協調制御、超Smart City研究
	高橋大志　教授	ビジネススクール、金融工学
神戸大学	貝原俊也　教授	エネルギーシステム論、情報科学
東京国際大学	松尾博文　教授	経営学,オペレーションズ・マネジメント
都立産業技術大学院大学	川田誠一 名誉教授	システム工学
	橋本洋志　教授	サービス工学、データサイエンス
	瀬戸洋一 名誉教授	サイバーセキュリティ、リスクマネジメント
	中鉢欣秀　教授	環境情報学、ソフトウェア工学
筑波大学	倉橋節也　教授	経営システム科学、シミュレーション経営学
東京大学	吉村　忍　教授	システム創成学
	梅田　靖　教授	精密工学、サステイナブル工学
	太田　順　教授	精密工学専攻 人工物工学研究、ロボット学
	古田一雄　教授	技術経営戦略、レジリエンス工学
	松尾　豊　教授	人工知能、人工物工学
	山本義春　教授	教育生理学
	西成活裕　教授	数理創発システム、渋滞学
	青山和浩　教授	システム創成学
	稲見昌彦　教授	複合現実感、ロボット工学、リアルメディア
	中村 宏　教授	高品質コンピューティング

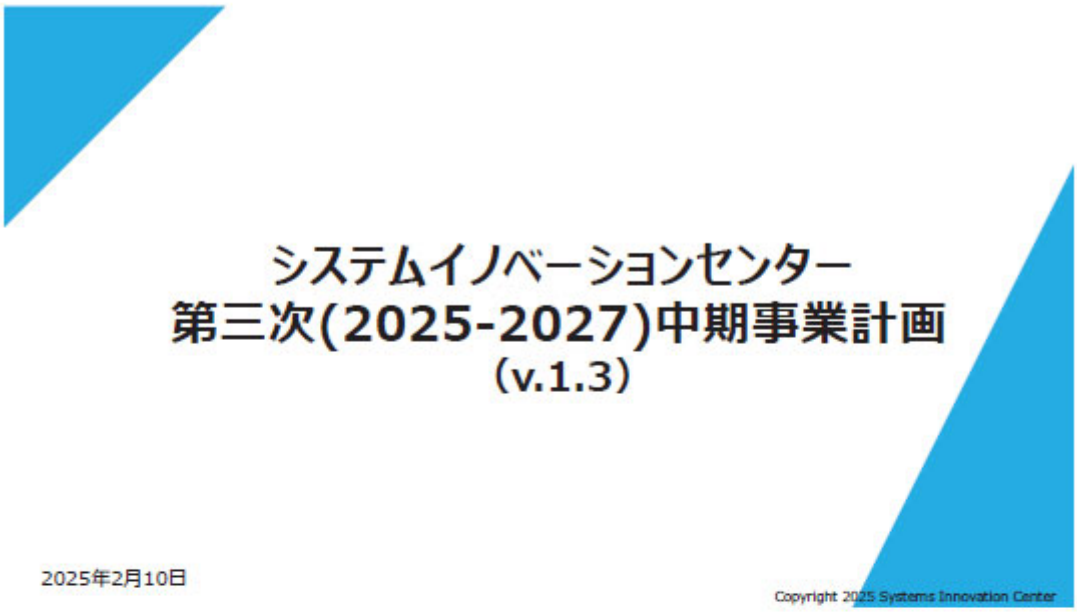
東京工業大学	寺野隆雄 名誉教授	AI、システム理論
	小野 功　教授	進化計算・最適化
東京農工大学	澁澤 栄 特任教授	リアルタイムセンシング、IoT精密農業、学習支援
統計数理研究所	椿 広計　所長	品質管理、統計科学
	田村義保 名誉教授	計算統計学、時系列解析
大阪大学	鎗水徹 教授	「経営とIT」戦略
一橋大学	鷲田祐一　教授	経営管理専攻,、マーケティング、未来洞察
北陸先端科学技術大学院大学	小坂満隆 名誉教授	サービス工学、システム科学
	神田陽治　教授	知識マネジメント、社会情報工学
	永井由佳里 教授	知識工学、ヒューマンライフデザイン
横浜国立大学	田名部元成 教授	経営システム科学,マネジメント・サイエンス
早稲田大学	岸 知二　教授	ソフトウェア工学
	高橋真吾　教授	経営システム,シミュレーション
	鷲崎弘宜　教授	人間行動モデル、シミュレーション
青山学院大学	玉木欽也　教授	グローバル製品サービス戦略
学習院大学	遠藤薫 名誉教授	社会学、社会情報学、メディア論、計算社会科学
	河合亜矢子 教授	サプライチェインマネジメント
芝浦工業大学	後藤裕介 准教授	意思決定、シミュレーション
桃山学院大学	大村鍾太 准教授	サプライチェインコーディネーション、DX
名古屋大学	下田真吾 特任教授	ロボティクス、生物の運動制御、人工知能

a4)　実行委員会委員名簿（2026 年度）

NO	委員区分	所属	氏名	会員種別
1	実行委員長	元（独）情報処理推進機構	松本　隆明	SIC 理事
2	実行委員	株式会社構造計画研究所	中野　一夫	正会員
3	実行委員	株式会社野村総合研究所	藤野　直明	正会員
4	実行委員	マツダ株式会社	折本 皇一郎	正会員
5	実行委員(正)	株式会社東芝	田島　正憲	正会員
6	実行委員(副)	株式会社東芝	小平　直朗	正会員
7	実行委員	横河電機株式会社	牧野　泰丈	正会員
8	実行委員(正)	日立製作所研究開発グループ	谷　　繁幸	正会員
9	実行委員(副)	日立製作所研究開発グループ	高橋　由泰	正会員
10	実行委員(正)	ロジスティード株式会社	櫻田 崇治	正会員
11	実行委員(副)	ロジスティード株式会社	徳永 直史	正会員
12	実行委員	東京大学	青山　和浩	学術会員
13	実行委員	千葉商科大学	寺野　隆雄	学術会員
14	実行委員	東芝デジタルソリューションズ株式会社	大道　茂夫	個人会員
15	実行委員	株式会社コマースロボティックス	吉武　宏昭	個人会員
16	実行委員	電脳バンク株式会社	浦田　敏	準会員
17	実行委員	(公社)日本工学会	高木　真人	個人会員
18	実行委員	RRI アドバイザー	水上　潔	個人会員
19	実行委員	SIC 事務局長	出口 光一郎	事務局員
	事務局	SIC 事務局次長	久保　忠伴	事務局員

【付録２】

a5)　SIC第3次(2025年度～2027年度)中期計画



第三次中期計画の要点

SICの活動における3本の柱

- 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援
- 優れた社会システムの実装に向けた推進支援
- 人材育成

を引き続き堅持し、製造業をはじめとする社会全域において、新しい価値を創造し、機能を高めるシステムを作り出すため、さまざまな領域におけるシステム化推進の民間主導の活動母体として、産業界、学界、行政と連携して、国際的な競争力向上に寄与する活動を、引き続き、継続する。
　さらに、新たな社会ニーズに応える分科会の設立等による、これまでに構築してきた現代システム論の体系化を図り、SICの体制の強化をめざす。

　その上で、第三次では、特に「良いシステムの構築」を呼びかけ、次の目標を掲げる。

- システムの「質」を重視して、システム化は何のためかを問い、「**卓越システム**」を再定義して、人を中心とした社会の豊かさを拡張する**「システム4.0」**を、各分野に普及・推進する。
- データ共有による豊かさの協創を図り、**それを通して「システム産業」の創出と活性化を促す。**
- システムのモダナイゼーション推進を通して、**「良いシステム」**を日本中に行きわたらせる。

◎人を中心とする社会の「豊かさ」、「質」は、システム論的には、「卓越したシステムの下で、データの共有が図られる」ことに帰着する。

「システム4.0」については、SICニュースレター vol.16.2 2024.12.3発行を参照。

【第二次中期計画の活動実績からの継承】

【第二次中期計画(2022-2024)の活動】

システム化推進への啓蒙活動

SICフォーラム(13回)、学術協議会特別講義 (8回)、連続講座「現代システム科学概論」(2期)、ケーススタディ講習(3回)、経営者研修講座(2回)、システム人交流会、産学交流会(3回)、システム化講座(3回)、SIC分科会活動報告会、などの開催

戦略提言発出の活動

SIC戦略フォーラム（全18回）の開催
6セクター(SWG)による戦略提言活動と提言発出
・ヘルスケア　・ロジスティクス
・エネルギー　・金融
・防災・レジリエンス　・科学技術

人財育成のための講座、教材の体系的な整備
実践的なシステム人の育成、分科会の強化
フォーラム、学術協議会特別講義の充実化

・人材育成講座：事例・教材の収集と体系化、パッケージ化
・会員を対象としたシステムフォーラムの多数回開催
・学術会員による専門講座開講と教材の作成・整備
・学術協議会との密接な連携による、システム塾、産学交流会、課題解決指向の分科会の設立

これらの推進では、① 研究テーマをどう展開するか、② 組織をどう機能させ確立していくのか、③対外的に何をどうアピールし、SICのプレゼンスを高めていくのか、の3つの要素について方針を明確にする。

関係機関へのSIC戦略提言の展開と実効化

各セクターの提言をそれぞれ実効力のあるものにするための戦略を整え、関連機関への働きかけと協働により、その分野での卓越システム構築への具体的な推進プロセスを確立する。

総合シンポジウムの開催による提言の深化

政策提言を軸とする総合シンポジウムを開催する。各セクターの提言する個別最適を全体最適へと統合し、企業・業種を超えるプラットフォーム構築の推進とシステム産業の創出・活性化の基盤とするため、外部の識者を交えた討論の場を設けて、提言の深化を図る。

【第三次中期計画(2025-2027)の目指すもの】

日本の各分野への「卓越システム」の普及を推進する。
それを通して「システム産業」の創出と活性化を促す。

・システムの「質」を重視しよう - 「社会にとっての良いシステム」を再定義する → **卓越システム**の普及・推進
・システム化は何のためかを問い、人を中心とした、社会の豊かさを拡張するシステム（**システム4.0**）への移行を図る
・データ共有による、豊かさの協創を志向する
・レガシーシステムのモダナイゼーション推進の支援

2025年度 SIC主要イベントの紹介

①「第2回システム人交流会―豊かな社会を協創するシステムへ―」開催報告
主催：SIC人財育成協議会

【開催日時】 2025年6月21日（土） 13:30～19:00 （対面開催のみ）
【開催場所】 西新宿：新宿住友ビル47F　新宿住友スカイルーム
【参加者数】 26名（基調講演講師1名、SICセンター長、実行委員長、事務局2名含む）

[開催の背景と目的]

SIC認定「システム人」とは、SIC人財育成協議会が主催する各種研修講座を受講された方の総称です。

SIC設立（2019年1月）当初から実施してきました人財育成協議会主催の各種研修講座の受講者に、この「システム人」の称号を授与しています。すでに称号をお持ちの方、各種研修講座を受講された方、及び、SIC 会員企業の皆様方を対象として、前回（2023年8月26日開催）に引き続き、第2回「システム人交流会」を開催しました。システム化の活動は、「システム思考」、「システム構築」、「システム運用」から構成されますが、これらを意識して、システムによるイノベーションを確固たるものにするためには、多くの方々の志を一つにする必要があります。システム人は、縦割り社会の中で横串を刺し、真の「システム化」を実現する仲間です。

豊かな社会の基盤となるシステムへ向けて、システム人としての活動に対するモチベーションを共有するともに、参加者同士の人的チャネルの構築も図ることが目的です。

そこで、前回に引き続き、対面のイベントの重要性を再認識し、実会場にて開催しました。キーノート講演では、「今進行しつつある AI 技術によるシステム構築のパラダイムチェンジ」と「それぞれのシステム人が現在の多様化の時代どう向かい合うか」のお話をしていただきました。

1. オープニング

「開催趣旨説明」および「主催者挨拶」

「総合司会・開催趣旨説明」
SIC理事・実行委員長　松本隆明

「主催者挨拶」
SIC代表理事・センター長　浦川伸一

2. キーノート講演

2. 1 「生成 AI がもたらしたシステム構築パラダイムチェンジ」
SIC代表理事・センター長
浦川伸一氏

アジェンダ
- はじめに
- IT 業界の大きな変化
- 生成 AI の論点整理
- DX/モダナイゼーションに生成 AI を
- 人財・組織をどうすべきなのか
- まとめ

講演中の浦川伸一氏

2. 2 「人材多様化時代を生きる個人」
法政大学キャリアデザイン学部教授
武石恵美子氏

アジェンダ
- 社会の変化
- 問題解決の糸口としての DEI
- 沈滞する組織から学習する組織へ
- ダイバーシティ経営と整合する個人
- 「先が見えない」時代のキャリア
  ドリフトしながら考える

講演中の武石恵美子氏

講演会場風景

3.　システム人称号授与式

3．1「システム人称号」認定書授与（今回で授与された方は、累積44名となった）

「システム人称号」を授与された方々（1名は途中退席）と浦川伸一SICセンター長

3．2 ミニ討論会「システム人への期待」

SICの活動の中でのシステム人への期待、システム人にとっては、そのポテンシャルをどう生かしていくかについて、以下の参加者（発言順）からの発言いただきました。

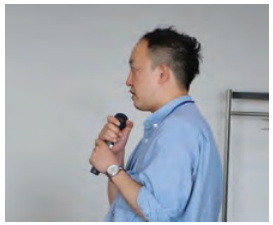
（発言録は本ニュースレターⅠ センター情報の③（11p～20p）に掲載）

田邉正幸氏
（SCSKシステムマネジメント）

松田善之氏
（東芝デジタルソリューションズ）

渡邉博康氏
（JSOL）

浦田　敏氏
（電脳バンク）



森光健一郎氏
（東芝デジタルソリューションズ）

舩橋誠壽氏
（横断型基幹科学技術研究団体連合）

②「SICシンポジウム2025　日本をシステムから考える」（2025. 9. 9）開催報告

SIC戦略提言活動の報告―システムイノベーションへの新しい道を切り開く

3年間にわたりほとんど全ての会員企業のメンバーが参画してきた「SIC戦略提言」活動の総括をする目的で、基調講演と成果報告のパネルディスカッションによるシンポジウムを開催しました。

【日時】 2025年9月9日（火） 14:00～17:00　終了後交流会　17:30～19:00
【場所】 東京駅八重洲口より至近 TODA ホール　4F コンファレンス会場（実会場にて対面開催）
【参加者数】 シンポジウム49名 （内　交流会37名）

司会　SIC理事・実行委員長　松本隆明

Ⅰ　オープニング　　主催者挨拶、趣旨説明　　SIC代表理事・センター長　浦川伸一

主催者挨拶中の浦川伸一氏

会場風景

Ⅱ　基調講演　「物理 AI が拓くサイバー・フィジカル・ヒューマン・システム」
SIC学術協議会主査　藤田政之氏（金沢工業大学教授、東京科学大学名誉教授）

【講演概要】

システムとは「共に立てる」がもともとの意味であり、その考え方は社会的課題への挑戦に欠かすことができない。

Society5.0 の中核となるサイバーフィジカルシステム（CPS）はまさしくサイバーとフィジカルを共に立てることを目指したものであった。一方これまで AI は思考することを中心に発展してきたが、現実世界で物理的に行動させるための物理 AI に注目が集まっている。

本講演では、人間という要素をもはや抜きにすることはできない社会的課題について分析し、新しい物理 AI による CPS と人間（Human）を繋ぐサイバー・フィジカル・ヒューマン・システムの構築について解説された。

講演中の藤田政之氏

Ⅲ　パネルディスカッション　オーガナイザー　SIC理事・実行委員長　松本隆明

「SIC戦略提言」とその社会実装に向けて、各活動グループ（WG）からの提言発出と、
ゲストコメンテータからのコメント

オーガナイザー　松本隆明氏

参加者に配布されたSIC戦略提言書
（A4 サイズ　150P）

はじめに、オーガナイザー松本隆明氏より、SIC戦略提言の策定と「卓越システム」の解説があった。

卓越システムに求められる要件

作られた理念が明快に理解でき、出来ることと出来ないことの境界がはっきりしている

システムの全体構成が理解しやすい

運用しやすく、故障への対応が容易である

拡張可能性（Scalability）がある

技術の進歩を含む環境の変化に応じて進化できる

利害関係者の多くを満足させることができる

堅牢で十分な持続可能性がある

システム構築、運用のコストが小さい

パネリストと提言タイトル

ヘルスケア WG：山本　義春氏（東京大学）
「人生100年時代にふさわしいヘルスケア分野におけるシステム設計の提案」

エネルギーWG：舩橋　誠壽氏（横幹連合）
「エネルギー移行を促進する連携構築のための新システムの提案」

ロジスティクス WG：藤野　直明氏（野村総合研究所）
「ロジスティクス分野におけるシステム設計の提案」

金融 WG：藤井　紳也氏（SOMPOシステムズ）
「マイナンバー及びマイナンバー制度の利活用推進に向けた提言」

科学技術 WG：出口光一郎氏（SIC）
「ソサエティ5.0へ向けて豊かな社会を先導する科学技術イノベーションの創生へ」

防災・レジリエンス WG：吉武宏昭氏（プロティビティ LLC）
「防災・レジリエンスの強化に向けたシステム構築に関する提案」

ゲストコメンテータによるコメント

5名のゲストコメンテータから、パネラーの提言に対して、それぞれの立場でのコメントをいただく。

藤田政之氏（金沢工大）

青山和浩氏（東京大学）

遠藤薫氏（学習院大学）

浦川伸一氏（SIC）

鹿子木宏明氏（横河電機）

最後に、オーガナイザー松本隆明氏より、SICとして以下を宣言した。

日本をシステムから考える ～SICからのメッセージ～

これまで我が国の産業は、現場の力によって支えられてきた
⇒ できるところから、できる範囲内で問題解決、カイゼンを行ってきた

しかしながら、VUCAの時代にあっては現場最適の考え方だけではイノベーションにはつながらず、世界で後塵を拝す状況となりつつある
⇒ 失われた30年の主たる要因

より高い視点に立ち、俯瞰的にとらえ、全体最適で考える、すなわちシステムとして考えないと現状の停滞から抜け出すことはできない

特に、分野を超えた連携と構想力で社会の創発を導く良いシステム（卓越システム）を考えることが重要である

ケーススタディとして今回提示した６つの提言に共通するのは、全体最適で考える卓越システムの必要性である

現場任せにせず、国や企業のマネージメント層自らが現場と一体となってより高い視点からシステムイノベーションを実現すべし！

（本パネルディスカッションの記録はSICホームページで公開の予定です）

Ⅳ　交流会　進行役　SIC実行委員中野一夫（構造計画研究所 HD）

SIC理事・鹿子木宏明氏（横河電機株式会社　執行役）の乾杯の挨拶でスタート

会中で以下の3名の会員企業の方から、それぞれの立場での、ショートスピーチをしていただいた。

東京電力パワーグリッド株式会社　取締役　常務執行役員　大石峰士氏
日鉄ソリューションズ株式会社　取締役　執行役員　鎌田三保氏
ロジスティード株式会社　DX ソリューション開発本部　櫻田崇治氏

③　「第3回SIC経営者研修講座」開催報告
テーマ：「“閉じる”から“つなぐ”へ： データ戦略が変える競争優位の本質」

【主催】 一般社団法人システムイノベーションセンター（SIC）
【共催】 一般社団法人ウラノス・エコシステム推進センター（OEPC）
【日時】 2025年11月11日（火） 13:30～16:30
【場所】 イイノホール＆カンファレンスセンターRoomA（オンライン開催を併設）
【出席者】 パネル講師：5名、会場出席：35名、オンライン出席：26名、実行委員長・SICスタッフ：4名
合計：70名

【内容】

Ⅰ　オープニング

松本隆明SIC理事・実行委員長より、本講座の開催趣旨について、以下の説明があった。これまでの日本産業は個別の「現場力」に支えられ、品質・信頼性・生産性で競争力を維持してきたが、これには限界があり、全体最適＝システム思考が不可欠で、分野横断的な連携と創造性による「卓越システム」が求められている。今回の講座は「企業のデータ戦略」がテーマであり、「閉じる」から「つなぐ」へ、データ連携とオープン志向による競争力強化を目指す、経済産業省主導の「ウラノスエコシステム」構想に連動し、OEPCと共催する。参加者には「共創」による新しいDXの理解を深め、自社のビジネス変革と日本産業の進化に貢献してほしいという期待が込められている。

Ⅱ　パネラー講演

浦川伸一（SIC代表理事・センター長、OEPC代表理事）

「AIとウラノス・エコシステムによるDX推進の現状と課題」

AIとウラノスエコシステムを活用したDX推進の現状、生成AIの普及、従来型情報システムとの違い、業務プロセス改革の事例、組織構造変革の可能性について講演した。DX推進における現場適用技術力と先端技術力の両立、ハイブリッド人材の育成、組織横断的なAI推進体制の構築、熱量（モチベーション）の重要性について、先進企業事例や具体的なアクションとともに説明した。DXや企業間連携を推進するには高い熱量（モチベーション）が不可欠であり、熱意ある人材が企業間をつなぐイニシエーターとなることが重要であると強調した。

齊藤　裕（SIC理事、情報処理推進機構（IPA） 理事長・最高執行責任者、IPA/DADCセンター長）

「企業間データ連携とエコシステム構築」

企業間データ連携の現状と課題、エコシステムの構築、ウラノスエコシステムやデータスペースの意義、標準化・ガバナンスの必要性について詳細に議論し、日本型の産学官連携によるボトムアップ型エコシステムの推進を強調した。AIを活用したイノベーションの加速と、Society 5.0の実現に向け、サイバー空間と物理空間の融合を目指す「人間中心社会」の構築が重要である。AIのパフォーマンスはデータの質と量に依存することが強調され、継続的なデータマネジメントがAIの進化に必要である。安全で信頼性の高い社会実装にはアーキテクチャが重要である。

島田太郎（SIC理事、株式会社東芝 代表取締役 社長執行役員CEO）

「AI・量子技術の進展と産業・社会への影響」

AI・生成AI・量子技術の急速な進展とその社会・産業構造への影響、データ駆動型からナレッジ駆動型社会への移行、量子コンピュータの実用化ロードマップや日本の戦略的取り組みについて解説した。量子技術は世界各地で産業化が進み、日本ではQ-STARが中心となって推進し、大阪大学・理研・富士通などが「純国産」量子コンピュータを開発している。物流・製造・金融・医療の領域で実用化事例が進んでおり、日本も政府は「量子未来社会ビジョン」「量子未来産業創出戦略」などを策定し、国際連携・標準化を推進している。
中心となるQ-STARには、2025年時点で141法人が加盟し、国内外の量子産業団体と連携し、国際標準化や社会実装を加速している。

岡本　浩（SIC理事、東京電力パワーグリッド株式会社 取締役副社長執行役員・最高技術責任者）

「エネルギーとデジタルの融合（ワットxビット連携）」

カーボンニュートラル実現に向けた電力システムの課題、データセンターの電力需要増加、再生可能エネルギーの需給ギャップ、エネルギーとデジタルの連携による社会最適化の必要性について具体的な事例とともに解説した。循環型社会の恒常性維持と共創のためのフレームワークが必要であり、Society 5.0/Utility 3.0の実現に向けて、電力需給の変革が求められている。情報系とエネルギー系の相互作用を通じて、サイバー・フィジカル融合社会の実現を目指す電脳融合構想による共創の枠組みが重要である。エネルギー文明の再設計を通じて、社会の命を支える新たな形を模索していきたいとの抱負を述べた。

藤野直明（SIC実行委員、株式会社野村総合研究所 シニアチーフストラテジスト）

「DX推進と組織・人材の変革」

従来のDX部門主導から、各事業部門にAI推進窓口を設け、IT・DX・ビジネス部門が一体となって現場業務にAIを浸透させる組織体制へのシフトが進んでいると説明し、現場理解と先端技術の両方をバランスよく持つハイブリッド人材がDX推進の鍵であり、組織内での育成・登用が求められていると述べた。SkywiseやCatena-Xを例に、新たな「データ連携基盤」は業種を越えた協調を可能にし、柔軟で自律分散型の構造をもたらす。DXは「社会システムの再設計」そのものであることが強調された。DXやデータ連携を単なる技術導入ではなく、「産業政策」「主権的データ戦略」「国際競争力強化」の文脈で捉え、日本企業は「モジュラープロデューサー」や「サプライヤー」から脱却し、「エコシステムドライバー」へ進化して、エコシステムの中核を担う存在を目指すべきであると述べた。

Ⅲ　ディスカッション

- 現代のビジネスにおいて、エコシステム型経営モデルとオープンイノベーションの必要性を強調し、プロダクトからサービスへの展開や多様な連携の重要性について議論した。
- AIの役割や量子技術の活用、データ連携の現状と課題、エネルギー消費の問題、今後の技術的展望について多角的に議論した。
- 日本の社会システムや標準化のコスト、グローバル展開のチャンスについて議論し、日本独自の強みや今後の展開可能性を示唆した。
- 欧州のデータスペース活用の現状や日本が追い抜くための要因、アプローチの違い、標準化やDX推進の課題について質疑応答を通じて議論した。
- AIエージェントの活用による業務自動化やアーキテクチャ設計、設計ドキュメントの重要性、日本型の改善活動と競争力強化について議論した。

・労働力不足や生産性向上の観点から AI やデータ連携の必要性を述べ、企業データの連携と AI 活用による課題解決の重要性を強調した。
・AI やサイバーフィジカルシステムの両立、日本固有の強みを活かした差別化戦略、業界特化型 LLM の開発など、日本が今後目指すべき方向性についてまとめた。

特に：

・サイバー空間だけでなくフィジカル空間も両立できる日本の強みを活かし、他国に負けない分野を追求すべきだとの意見も述べられた。
・日本独自の業界特化型や用途特定型の LLM 開発が進んでおり、企業連携による取り組みの重要性が示された。

フォローアップ　タスクとして、以下が指摘された：

・データ連携の推進:企業内の重要なデータを AI 学習のために連携・活用する具体的な方法を検討する。
・製造業における AI アーキテクチャ:製造業でのエージェンティック AI アーキテクチャの実装事例や進捗を共有する。

パネラーによる
ディスカッション

Ⅳ　会場風景

（写真掲載は了承済みです）